

2006年11月19日ドラッカー学会第1回大会講演

大学改革

P.F.ドラッカーさんから
学んだこと

立命館大学 坂本和一

ドラッカーさんとの出会い(1)

第1。『新しい社会と新しい経営』(1950) との出会い

(1) 戦後「大量生産革命」の意義を説く。

社会的インパクト

経営的インパクト

(2) 私の「生産様式(生産システム)研究への
インパクト

ドラッカーさんとの出会い(2)

第2。『断絶の時代』(1969)との出会い

- (1) 20世紀までの「財産社会」から「組織社会」、
「知識社会」への転換—「連続の終焉」を説く。
- (2) 当時の私の関心 19世紀から20世紀への
不連続
- (3) 20世紀から21世紀への不連続への関心
1990年代、拙著『21世紀システム』
(1992)につながる。

ドラッカーさんとの出会い(3)

第3。『イノベーションと起業家精神』

(1985)との出会い

(1) 社会発展、企業進化における「イノベーション」の意義を説く。

(2) 当時の私の関心

GE、IBMのイノベーション

動き始めた立命館第3次長期計画(立命館改革)

ドラッカーさんとの出会い(4)

第4。1998年、念願の直接の出会い

ロスアンゼルス郊外、クリアモント
の自宅へ

APU創設支援のお願い

「支援のメッセージ」(後掲)





What Ritsumeikan Asia University
is going to do: to integrate Asia
through advanced education, is the
most important task in world

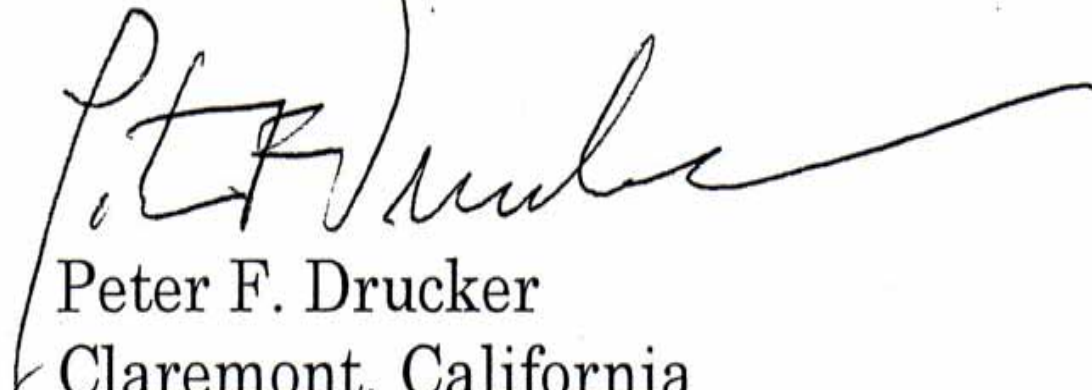
Economy and world society. It promises
to provide Asia with the Human
Foundation for its economic success

My best wishes
Chapman, California
Hersey 10, 09 02

Pat Tracker

What Ritsumeikan Asia Pacific University is going to do – to integrate the Asia-Pacific region through advanced education – is the most important task in the world economy and world society. It promises to provide the region with the human foundation for its economic success.

My best wishes,



Peter F. Drucker
Claremont, California
February 9, 1998

立命館APUへのメッセージ

「立命館アジア太平洋大学APUが成し遂げようとしていること、すなわち高等教育を通じてアジア太平洋地域を融合することは、世界の経済や社会にとってもっとも大切な仕事です。それによって、この地域の経済的成功を達成するための人材的基盤が築かれるのです。」

(1998年2月9日、クリアメント)

大学改革：私の関わった 3つのイノベーション

(1) 大学コンソーシアム京都(京都・大学センター)の設立

1993年 大型単位互換制度

(2) 立命館大学びわこくさつキャンパス(BKC)新展開

1998年 経済・経営2学部移転・新展開

(3) 立命館アジア太平洋大学(APU)創設

2000年 わが国初の本格的国際大学

(1) 大学コンソーシアム京都

1993年、京都・大学センター

1998年、大学コンソーシアム京都

1999年、キャンパスプラザ京都(駅前)

「大学のまち・学生のまち京都」

「京都のまちを、大学に！」

大学間競争 大学の共存・共栄

わが国初の大型大学コンソーシアム

(2) BKC新展開

「これからは、文理融合の時代」

理工 + 経済・経営

「日本のMITをめざそう！」

1998年、経済・経営2学部一挙移転

文理総合インスティテュート

産官学連携、地域・大学連携のモデルに

(3) APU創設

わが国初の本格的国際大学として

学生の半分は、留学生

英語・日本語2言語両建ての教育システム

英語にもとづく一貫したカリキュラム体系

わが国の留学生受入れモデルの転換

留学生出身地：北東アジアから全世界に

世界74カ国・地域から2,000名を越える

留学生

全立命館の国際化へのインパクト

(3) APU創設

学生定員(1学年)800名にかけた思い

学生の半数(50%)を留学生で

認可規制との闘い(当時の状況)

留学生毎年400名にかけた思い

毎年400名の確証を求める大学設置審

学生推薦協定400校戦略

教職員チーム、世界20カ国・地域、700高

校をまわる

400名を大幅上回る学生推薦協定

ドラッカーさんから学ぶ 「大学のイノベーション」

大学組織に

いかに「イノベーション体質」を根付かせるか。

『イノベーションと起業家精神』

第14章「社会的機関における起業家精神」に励まされる。

「社会的機関における起業家精神」

「社会的機関も、企業と同じように、起業家としてイノベーションを行わなければならない。

いや、むしろ企業以上に企業家的であることが必要である。」

「社会的機関がイノベーションを行うことは、もっとも官僚的な企業と比べてさえ、はるかに難しい。」

「社会的機関は、イノベーションの機会の追求を自らの活動に組み込まなければならない。」

私が大学のイノベーションから 学んだこと

「大課題」の提起は
トップダウンの役割。

「大課題」への挑戦には
「大義」が必要。

達成感の蓄積が
次のエネルギーを生む。

イノベーションは継続しなければならない。